

# 第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

総合的な学習の時間研究室

## 1. 単元名 福祉について考えよう

## 2. 目標

- お年寄りや障がいのある人たちに出会い、かかわり、ともに過ごすことで、彼らの願いや思いを理解し、共に生きることの大切さを学ぼうとしている。
- 社会の中におけるお年寄りや障がいがある人たちの立場や、どういう思いで作業所や施設がつけられたのかを調べ、福祉の意味を考えることができる。
- 福祉の現場で働く人たちの様子を調べることを通して、自他を大切にしていればよりよく生きようとする信念を持って働くことの大切さを感じ取り自身の将来の生き方を考えることができる。

## 3 指導観

- 本校区には3小学校がある。A小学校には肢体不自由学級があり、B小学校には知的障がいの特別支援学級・LD、ADHDの通級指導教室がある。3小学校の中では規模の大きなC小学校にはそのような特別支援学級はなく、肢体不自由学級の生徒との接し方に多くの生徒たちにとまどいがみられる。また、生徒の日常生活においては福祉について考え、意識して行動する機会ほとんどないのが現状である。中学校入学を機会に体験の場を設定し、体験の機会を与えることは、生徒一人一人のこれからの生き方を考えさせる上で意義のあることであると考えられる。

- 本校には肢体不自由学級が設置されており、当然のことながら障がいのある生徒と接する場面が、学校生活の中でも多くある。入学後の早い時期から福祉についての学習を行い、関心を持たせることは今後のよりよい学校生活を送る上でも意義のあることであると考えられる。また、様々な事業所を訪問することは、生徒に社会性を身につけさせる上で効果のあることであると考えられる。

この学習を通して、ハンディのある人のことを少しでも理解し、互いの存在を認めあえる価値観をもてるようにしたい。また、これからの社会を生徒一人一人がよりよく生きるため、体験学習での事業所とのかかわりなど体験学習そのものを通じた社会とのかかわりの中で、自分自身の生き方を模索するきっかけとしたい。

学習の終わりにあたっては情報交換の場を設定し、他の生徒が経験したことを共有する場を設けることで、将来に向けた様々な生き方を模索する上で価値あることであると考えられる。

- 生徒の意欲を持続させるために各段階において、次の手立てをとる。  
一つ目は、出会う段階において、福祉作業所や老人福祉施設等のGTをお呼びして様々な生き方を持った人々の姿（思い）との出会いを設定し、その生き方に

学び、今回の体験学習を有意義なものにする。

また、アイマスク体験などの疑似体験を経験させることで、ハンディのある生活がどのようなものであるかを自ら経験することで意欲的に今回の体験学習に関わっていくと考える。もちろん、実際に福祉事業所に出向いて様々な人と関わることはハンディのある人たちに対して関心を持ち、関わっていかうとする意欲を喚起することができると思う。(手立て1)

二つ目は、つかむ段階において、学習の見通しを持たせ、ゴールを明らかにする。(手立て2)

三つ目は、さぐる段階において、実際に福祉作業所での1日体験を通して、福祉の現状を直視し、その課題を見つめることで、これからの福祉とのかかわりと、自分の生き方を見つめるさせたい。実際の体験を行うことは、生徒の意欲を喚起する上でとても重要なことであると思う。(手立て3)

四つ目は、広げる・生かす段階において、体験学習の終了後に自分たちの体験をまとめ、それぞれに発表する場を設けることで、自らの学習を振り返るとともに、他の生徒の体験を自分の体験として考えることができる。さらにこのことは学習の広がりにもつながると考える。また、体験学習の終了後も福祉のことを更に深めるために学習の振り返りの場を設定し、今後日常的に取り組める学習のきっかけとして、その内容の定着をはかりたい。(手立て4)

#### 4 単元計画 (25時間)

段階	学習活動と内容	教師の支援	配時
出 会 う	○オリエンテーション 1年間の総合学習の取組の計画を聞き、福祉体験学習の取組計画を立てる。	・年間の計画をわかりやすくディスプレイする。	1
	○事前学習1 体験学習訪問先についての説明を聞き、訪問先の希望調査に答える。	・目的意識を持って体験学習ができるように、十分な意識付けを行う。	1
	○事前学習2 お年寄りや障がいのある人たちの生き方を通し、社会の中で彼らがおかれている実態や彼らの願いを知る。そして、共に生きることの大事さを理解し、自分の今後の生き方を見つめさせる。 体験先の発表と担当教師の発表と顔合わせ	・学習プリントを用意して今後の学習の意識付けを行う。	2
	○事前学習3 GTを招いて講話を聞く。 ・障がいのある人の作業所づくりを通し	・GTを招いて講話を聞くことで、生徒の意欲を喚起させる。	2

	て願うこと ・お年寄りの介護やケアに関わって ・障がいのある子どもたちに関わって ・介護や福祉を担う若者を育てる	(手立て1)	
つかむ	○事前学習4 福祉体験学習を取り組む上で模擬体験を行い、その問題意識を持つ。 ・アイマスク、車いす、お年寄り体験、マナーについて ・お年寄りや「障がい」をもった人たちと過ごすときに心がけたり注意すべきことの学習	・模擬体験を行うことで、福祉に対する問題意識を喚起し、体験学習に対する意欲を継続させる。(手立て2)	2
	○事前学習5 訪問先について調べ学習を行い、体験学習当日の学習プランを作成する。 ・学習プリントの作成 メンバー、テーマ、体験先の案内、質問内容、日程、自己紹介、アポイント原稿と練習、下見の要領、老人保健関係の出し物練習		2
さぐる	○下見と事前の挨拶 ・福祉体験学習前日にあたり、事業所の下見と事業所の方々との最終確認を行う。 ○福祉体験学習 ・1日の体験学習を通して、福祉の問題点をさぐり、自分のこれからの生き方にいかせるように課題意識を持って取り組む。	・事前の訪問を行うことで、体験当日に向けての意欲を喚起させる。(手立て3)  ・1日の体験学習を通して福祉の現実に学び、これからの自分の生き方につなげられるように課題意識を持って取り組ませる。(手立て3)	2 6
	○反省と感想のまとめ ・体験学習を振り返り、これからの生き方を考える。	・体験学習の成果を、これからの自分の生き方を考えるきっかけにできるようにし、意欲の持続をはかる。 (手立て4)	1
	○礼状書き		1
	○福祉体験学習報告会	・発表会を行うことで、生徒	2

広 げ る ・ 生 か す	・他の生徒の発表を聞き，自分の体験と照らし合わせて，学習の成果を確認する。	一人一人の学習の成果を確認させ，体験学習の広がりを図る。 (手立て4)	
	○アンケート調査	・体験学習から2ヶ月たった時期にアンケート調査を実施し，今回の体験学習の意欲の持続について確認する。	1
	○振り返りの学習 ・	本時 (手立て4)	1
	○アンケート調査と取組の紹介	・それぞれの取組を確認し，その成果を知らせる。	1

5 本時                      10月25日 (木)                      6校時

6 本時の目標

- 学習の成果を再確認し，他の生徒の活動を知ることによって，今後とも学習の成果を日常化できるように意欲を持続する。

7 本時の考え方

- 福祉体験学習について，時間をおいたこの時期に再度振り返りの場を設定することで自他の学習の成果を再確認する。特に意欲の持続が見られるものを紹介することで生徒の中に意欲を再度喚起し，学習の日常化を図りたい。(手立て4)  
アンケートの調査結果をもとに福祉体験学習が自分たちの中でどのように役に立っているのか，他の生徒の意見を聞きながら，自分の生き方を振り返る場としたい。また，今回の学習を深めるために振り返りの場として本時を設定し，今後とも福祉について関心を持って生きることは，よりよい生き方につながることを実感させたい。(手立て4)

8 展開

	活 動 内 容	教 師 の 支 援	配 時
導 入	1 今日のめあてを確認する。	・ 1学期の体験活動を簡単に振り返り、想起させる。	3
展 開	2 アンケートの結果を確認する。 ①体験後の自分で生き方の変化を感じたもの ②自分の生活の中で継続して生かしているもの	・ 事前のアンケートを確認し、それぞれの内容を発表させ、共感できるようにする。 ・ 連続した意識がみられるものを紹介することで、学習（意識の継続（持続））がなされていることを確認する。 ・ 福祉とは 一人一人が幸せに生きること そのためには、「思いやり」や「自他の存在を認めること」が大事であることを確認する。 「共生・共存」	10
	3 福祉とは何かを話し合う。 今回の体験をもとに、何が一番大切であるかを考え、発表する。 ・ 自分の考えをまとめる。 ・ 自分の考えを発表する。	一人一人が幸せに生きること そのためには、「思いやり」や「自他の存在を認めること」が大事であることを確認する。 「共生・共存」	10
	4 「自他の存在を認め」「思いやり」をもって生きることはお互いのよりよい生活につながり、それこそが福祉につながることを確認する。しかし、残念ながら、なかなかかかわれない理由を集計結果から確認する。 「機会がないから」 19名 「自分が行動できていない」 9名	・ 今後の生活の中で、意識して学習の機会を与えることで学習の深まりを促し、学習の日常化を図る。 (手立て4)	5
	5 より体験学習を生かすために、更なるかかわりを深めてみよう。 自分なりに取り組めるものはないか、できることはないか。一人一人を考える。 ①事業所とのかかわり ・ 手紙 ・ 訪問 ②特別支援学級生徒とのかかわり ・ 実際のかかわり ③祖父母とのかかわり ・ 手紙	・ 一つ例を提示して、今後の生活の中で意識していくことを確認する。 (手立て4) ・ いくつかの例を提示し、生徒が考えやすいように思考の手助けを行う。 ・ 机間巡視をする中で良いものを数名発表させる	10

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なかかわり</li> <li>④地域とのかかわり</li> <li>・老人会</li> <li>・点字ブロック上の自転車</li> </ul> <p>6 それぞれの今後のかかわり方を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私のやったるぜ宣言」を作成し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも継続して取り組むことの大切さを確認する。</li> <li>・特によいものを発表し、他は紙面で発表させる。</li> </ul>	5
終末	7 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月後に取組の結果を発表することを伝える。</li> </ul>	2

# 福祉体験学習 事後アンケート

1 年 2 組 番

氏 名

---

福祉体験学習が終わって3ヶ月が過ぎましたが、もう一度振り返ってみましょう。  
あなたの生き方にどんな影響がありましたか。

- 1 福祉体験学習では、どこの事業所に参加しましたか。

事業所の分類

事業所名

- 2 あなたは事業所でどのような活動をしましたか。箇条書きで結構です。

- 3 今振り返ってみて、この学習はあなたにとってどのような成果がありましたか。

※ 以前の自分と比較したとき、生き方の変化を感じてみよう。

以前の自分→自分のレポートを見て客観的に感じよう。

体験後(今)の自分

- 4 体験学習は終わりましたが、その後も福祉について活動したり、行動したりしていることはありますか。(事業所とのかかわり、8組生徒とのかかわりなど、その他)

ある                      ない

あると答えた人について

どのような活動，行動をしていますか

ないと答えた人について

なぜ活動，行動ができないのですか。

- 5 福祉について、あなたが今考えていることを書きなさい。

福祉

- 6 これからの生き方について、あなたが今回の福祉体験学習をどう生かしていこうと思えますか、今考えていることを書きなさい。





- 発 ・ 8組の生徒が廊下を通るときに邪魔にならないようにした。
- 発 ・ バスでボタンが押せないおばあさんの代わりにボタンを押した。
- 発 ・ 近所の老人に積極的に挨拶をするようになった
- 発 ・ 通りかかったときになるべく挨拶をするようにしている。

多くの人たちが、この前の体験活動を無駄にはしていないようですね。中には今でもこの前の体験を生かして、意識して取り組んでいる生徒もいるようです。先生たちとしてはとてもうれしいことです。

それでは、この前の体験活動や日頃の体験を参考にして、せっかくだから福祉についてもう一度考えたいと思います。

今回の体験活動を経験して

みんなが考える 福祉 P って何だと思いましたか。

福祉を行うことで大事なことって何ですか。

たぶんいろんな考え方があるのではないかと思います。

まず、自分の考えをまとめましょう。 2分

班で話し合い、班の考えをまとめましょう。 3分

発表しましょう。 5分

実はこんな話を見つけました。

ある人が福祉とは何ですか。と聞かれたときに答えた言葉は  
あなたのお父さん、お母さんはあなたが生まれたとき、どのように思ったでしょう。」 どう思ったと思いますか。

きっと、「幸せに生きてほしい」と願ったと思います。これが福祉です。  
福祉とはそういう暖かいものなんです。 すなわち 愛 だろう。  
福祉とは = 一人一人が幸せに生きる社会こと

そのためにはいろいろな事柄が必要だと思う。お金、施設など でも

- ・みんなは、どんな気持ちが必要だと思いましたか。

接する上で気をつけたことはどんなことですか。どんな気持ちで接するべきだと思いますか。

思いやり

 P ・ 自他の存在を認める P

きっと、このことは相手がハンディを持った人だからと、特別扱いをすることではありませんね。 特別扱いは思いやりではありません。

きちんと相手を認めてあげること。認めてあげれるから、そこに本当の思いやりが生まれるのではないのでしょうか。みんなのアンケートの中にも以前は何もできなかったけど、今回の体験を通して対応できるようになったとありました。これは相手をきちんと認めて

あげれるようになったことが、そのことにつながったと思います。このことは別に福祉と言うことだけではなく、みんながこれから幸せに生きていく上では、とても大事なことではないかと思ひます。

自分のこれからの生き方を考える上でも非常に大切な体験でしたね。 デモね。

しかし、残念ながら、今の生活の中で体験学習が生かせていない人も

19名もいます。

また、自分が行動できていないという人も9名もいます。 クラスは何人。(37名。)

3分の2の人たちです。

理由は、何と思ひますか。

何でしょうか。

機会がないからということ。 チャンスがなひ。

ほんとかなあ。 うちの学校には8組もあるし、地域にはご老人も住んでいるし、実際はやろうとしていないんじゃないの。

せつかくの体験だったし、もっとこれからは生かしていけば、みんなの成長にとってもきっとプラスになる事柄だったのではないでしようか。実際あの体験をダメだったと答えている人はいませんでした。

そこで、みんなにはぜひ今後の生活の中で、無理のない範囲で、福祉について今後とも取り組める事柄を考えて、実践してもらいたいと思ひます。

例としては、今でも継続している人がいましたね。

たとえば バスの座席を譲ったこととか。 阪急電鉄の優先座席復活の話  
そういうことでいいと思ひます。 席を譲ったことがある人、何人いますか。  
そのときの気持ちは、

題材としては	① 事業所とのかかわり	・手紙 ・再訪問	先生に	P
	② 8組とのかかわり			P
	③ 祖父母とのかかわり	・手紙	・かかわり	P
	④ 地域とのかかわり	・老人会など		P

とまあ こんなところが考えられると思ひます。もちろん自分なりに考えたことでもかまいません。 ほかにも点字ブロック上の自転車を登下校の際に動かすとか

それでは、 私の福祉行動宣言だ。 P

2週間後に再度その取組の感想をアンケートしたいと思ひます。

どんなことができるか考えてください。できたら具体的に数の目標を掲げてくれたら後々達成度もわかります。

何人かの人には発表してもらいます。この2週間意識して取り組める事柄を考えてください。

それでは、決まりましたか。何人かの人に宣言してもらいます。

ありがとう、ぜひ、がんばってください。残りの人たちの分は張り出してもらいます。  
ぜひ意識してがんばってください。

私のやったるぜ 宣 言
氏名

